

2010年6月29日
附属学校部

附属学校部研修会

1. 日時

2010年8月30日(月) 14:00~17:00

2. 場所

奈良女子大学コラボレーションセンター Z306

3. 対象

奈良女子大学附属学校園教員および大学教員(約80名)

4. 講師

小林傳司(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 教授)

■キーワード

科学哲学、科学技術論、科学技術社会論学会、コンセンサス会議

■プロフィール

理学部出身ではあるが、実験科学者に不向きと悟り、科学史・科学基礎論の大学院に進む。専門は科学技術論、科学哲学。福岡教育大学、南山大学を経て、2005年から大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。



1998年から2000年にかけて、市民参加型テクノロジーアセスメントのコンセンサス会議に携わる。当時は、学界、社会からほとんど相手にされなかったが、21世紀になるあたりから風向きが変わった。2001年、科学技術社会論学会設立に携わり、初代会長を務める。

最近では、現代社会における科学技術の社会的、政治的意味についての検討に関心がある。またコンセンサス会議を実施した者の責任として、参加型テクノロジーアセスメントに関する理論的研究も行っている。その他、1970年前後の日本や先進国の大きな社会変動を理解するために「70年代の日本の科学論の遺産研究会」を開始した。センターでは、科学技術コミュニケーションの教育プログラムの開発を担当している。

5. 内容

科学技術と社会のコミュニケーションを考える上で重要な事例、遺伝子組み換え作物、地球温暖化などを紹介しながら、市民と科学技術のかかわり方、市民と科学技術の専門家との対話とその意義について考える。

さらに科学技術コミュニケーションに関するメディアの役割についても取り上げる。そのうえで、中等教育における市民教育と科学技術コミュニケーションの関係についても議論したい。